

令和8年

2月

蒜山自然再生協議会
事務局だより

発行日：2026.1.23

風の便り 第6号

発行元：蒜山自然再生協議会事務局
岡山県真庭市蒜山上福田1205-780
シェアオフィスひととき内

2026

上半期

2月



2/15 (日) スノーシューハイクツアーアin 嶋ヶ原

スノーシューを履いて、雪で覆われた嶋ヶ原を専門家2人（津黒いきものふれあいの里 雪江館長、蒜山自然再生協議会事務局 千布）と一緒に歩きましょう。2人はいったいどんな見方をするでしょうか？また、みなさんは何を見発見するでしょうか？



2/28 (土) 大山隠岐国立公園指定90周年記念フォーラム

第1シンポジウム内で、蒜山地域の自然再生を、地域の経済・文化・伝承を活性化・再生する形で未来につなぐ取り組み、さらに民間事業者と進める新たな活動についてお話しします。

3月



3月上旬 蒜山自然再生協議会 第6回（令和7年度後期）総会

各委員が集まって話し合いをする協議会にとって大切な会です。

4月



4/4 (土)、5 (日)、11 (土) 山焼き in 嶋ヶ原

予備日：12 (日)、18 (土)、19 (日)

約800年前から、蒜山に住む人の暮らしと共にあった「山焼き」。それが今も続いているからこそ、そこに根ざした生態系が生まれています。「山焼き」が続けられるのも、地域のみなさんや全国から集まってくれるボランティアさん、協力してくださる方々のご理解とご協力があってこそです。ご参加お待ちしております。今年も山焼き見学ツアーを開催いたします。



4/25 (土) 草地草原の電気柵設置作業 in 嶋ヶ原

草原保全活動の一環で約800m分の電気柵を設置します。電気柵の足元に漏電を防ぐための防草シートの設置も行う地道な作業。短時間でも構いませんので、お手伝いいただけたらとても助かります！

5月



5/2 (土) サクラソウ観察会・ユウスゲ苗植栽 in 嶋ヶ原

専門家2人（重井薬用植物園 片岡園長、津黒いきものふれあいの里 雪江館長）と一緒にサクラソウ自生地を歩きます。この時期に見られる他の動植物も楽しみ。観察会のあとは、フサヒゲルリカミキリの餌になるユウスゲの苗の植栽を行います。



5月下旬~6月中旬 1番草の時期の草原の草刈り

草原特有の動植物を保全するには、山焼きだけでなく、昔から伝統的に行われている初夏の草刈りが必要です。大変な作業ですが、何か楽しいことも検討しています。

6月



6/13 (土) サクラソウ自生地夏の草原保全活動 in 嶋ヶ原

専門家2人（重井薬用植物園 片岡園長、津黒いきものふれあいの里の雪江館長）と一緒にサクラソウ自生地でもこの時期に草刈りを行います。ススキなどの背丈の高い植物が抑制されることで、サクラソウのような背丈の低い植物が優位になり、それを餌にする生き物も暮らしやすくなります。



左のウサギのマークがついているイベントはご参加可能なものになります。
時期が近づきましたら、再度インスタグラム等で告知いたします。



Instagram

12/17 大山蒜山地域の植生をニホンジカから守る 広域連携情報交換会（環境省主催）に出席しました

岡山県に加え隣接する鳥取県・兵庫県からも情報提供があり、シカの分布が、西へと急速に拡大し続けている現状が共有されました。最新の調査結果によれば、大山・蒜山地域にもすでに分布の最前線が到達しており、極めて危機的な状況にあるとのことでした。このままでは、森林、草原、農地への影響が大きくなる心配があります。この会議でも報告させていただいたのですが、協議会では令和6年より草原保全活動として、ボランティアの皆さんとともに鳩ヶ原において約800mの電気柵を設置しています。事務局では漏電防止のため、ボランティアの皆さんと一緒に定期的に柵周辺の草刈りを実施や、点検などの管理を行っています。

しかし、今後蒜山地域でもシカの個体数増加が見込まれる中、電気柵や防鹿柵の設置のみでは十分な対策とは言えません。協議会としても、差し迫った大切な課題として認識しています。

蒜山地域で地域おこし協力隊の活動の一環として、獣師としてシカなど野生動物と対峙されている半田さんにお話しを伺いました。

一現場の様子や状況を教えてください。

僕の活動場所の一つである真庭市ジビエカー(鹿の一次処理施設)では、鹿の年間処理頭数が昨年度の約960頭から、今年度は12月末時点で既に1,000頭を超えており、そのことから真庭市全域において鹿の個体数が増加していると感じています。毎年シカやイノシシにより農家さんは農作物の被害を受けています。私のいる中和地区では今年はイノシシが少ないため農作物の被害は軽減されているようです。イノシシが増加するのも問題ですが、個人的には鹿の増加に対し、とても危機感を持っています。農作物の被害に加え、森林被害や植林被害もあり、それにより倒木や土砂崩れなどを引き起こし、人的被害につながる可能性が高いからです。

真庭市へ移住してからは罠猟も始める事になり山へ赴く頻度も増えるため、ダニやブトなど、虫に刺される事が多く、本当に辛かったです。私の場合は有害駆除活動やジビエカーでの活動が多いため、虫除けスプレーを用意し、レインコートと長靴の服装で常に虫対策をするようになりました。



半田さん



画像は高橋撮影（20240501大阪府能勢町にて）

蒜山地域の東側にお住まいの方は、すでに見られたことのある方もいらっしゃるかもしれません。シカの個体数が増えることで、森の中でははっきりとした変化が起きています。その代表的な例が、シカが食べやすい高さにある植物が大きく減ってしまうことです。写真の左側に写っている手前と奥の低木は「アセビ」という植物で、シカが好んで食べない植物（シカ不嗜好性植物）で、このような“食べられにくい植物”だけが残り、ほかの植物が極端に少なくなってしまいます。その結果、食害を受けた植物を利用して暮らしていた他の生き物も減り、地域の生物多様性が失われる原因になります。すぐ近くの自然の状況は刻々と日々変化しています。人と野生動物の関係性について、これからも考えていきたいと思います。



画像は大畠撮影（202512月末蒜山地域にて）

昨年末のセンサー回収で下蒜山～中蒜山間を縦走した際、尾根のリョウブにシカによる樹皮剥ぎの跡がありました。今まであまり見ることはなかったのですが、シカの個体数が上がってきた証拠かもしれません。



大畠



画像は蒜山がま細工のInstagramより (@hiruzengama)

蒜山がま細工の制作最盛期

協議会の委員でもある蒜山蒲細工生産振興会の皆さんによる、蒜山がま細工の制作は3月末ごろまで続きます。材料となるヒメガマもシナノキもすべて蒜山産。振興会の皆さんを中心には、これらの材料の収穫から編める状態にするまで、手間のかかる工程を一つひとつ積み重ねてがま細工はつくられています。

広報誌「風の便り」のご感想・ご意見、協議会へのご質問はこちらのアドレスまで
hiruzen.nature.restoration.mit22@gmail.com（蒜山自然再生協議会事務局）